

日本語の「打」について

李 陽*

A Comparison Between the Chinese 「da」 and the Japanese 「utsu」

Li Yang

Introduction:

The character 「da」 in Chinese is widely used in daily life of Chinese people. It could be used to replace many other verbs to make expressions more vivid and lively. The Japanese 「utsu」 has both some similarities and dissimilarities with the Chinese 「da」. 「Utsu」 could also replace some verbs, but to a much less extent than the Chinese 「da」. The author is going to make a comparison between the two.

まえがき

中国語の「打」は、動詞として中国人の日常生活用語の中で、重要な役割をしている。「打」は色々な動詞の代わりに用いられ、話し言葉を生き生きさせている。「打」はある動詞と組み合わせるとまた動詞になったりするほかに、他の品詞と組み合わせれば、動詞や名詞や助動詞などになったりし、また前置詞や助数詞としても用いられている。なお、「打」を含める慣用句も数少なくない。これを万能の言葉といっても過言というほどでもない。

「打」を含めた言葉は数多いが、その中に中国の地方の方言も入っている。ところが、世の移り変わりに従って、言語も絶えずに変わってくるはずであるが、それはだんだん広く一般に認められたものとなってきた。例えば、「打牙祭」という言葉は元来南方の方言であったが、現在は共通語の言い方となって、辞典に収集されている。また歴史の変遷に従って、ある言い方は生まれたり、消えたりしているのである。中国語の「打」は日本語

* 教養部

の「打つ」とを比べてみると、共通点がある一方、違いもある。「打つ」は「打」と同じく、数多くの動詞に代わることができる。

一. 動詞として

1. 基本義の「打」について

中国語の「打」は、物体または物体の一部が動いて、直接もしくは道具などを介して、間接的に他の物体を音を出すほどの勢いで当たられた状態にさせるという意味である。日本語の「打つ」、「殴る」という意味に当たる。

例・打鼓／太鼓を打つ

- 警察用棒子打犯人／警察が棒で犯人を殴る
- 打丫(ya) 的／あいつを殴れ

「打丫的」という言い方は北京弁でめったに聞こえない若者の悪口である。

- 手で頬を打つ／打耳光
- 杭を打つ／打桩

或いは物体それ自身が動くことにより、自動的に他の物に音を立てるほどの勢いで当てるという意味である。この点も「打」は「打つ」と同じである。

例・柱時計が正午を打った／掛鐘打了十二点

- 剛剛打了一点鐘／今丁度一時を打った

ところが、ある場合「打」と「打つ」は互いに訳したら、それぞれの表現が違う。

- 打雞蛋／卵を割る
- 手を打って人を呼ぶ／拍手喊人

2. 転義の「打」について

(1) 「打」は前書に述べたように色々な動詞に代わることができ、日常会話に活用され、言葉を生き生きさせている。本来の意より連想させ、基本義を失い、他の意に転じ、たくさんの動詞の代わりに用いられている。

例・打起精神（振奮～）／元気を奮いたたせる

- 打領帶（系～）／ネクタイを結ぶ
- 打草（割～）／草を刈る

- 打傘（撐～）傘をさす
- 打灯谜（猜～）／謎を解く

中国で旧正月十五日や中秋の夜、灯笼や吊り提灯に詩句や謎の文句を書きつけおき、これを解いた人は答を紙に書いてそこにはり付けておくという遊びである。

- 打灯笼（提～）／提灯をつける
- 打毛衣（織～）／セーターを編む
- 打草稿（写～）／原稿を書く
- 打糧食（収～）／穀物を取り入れる
- 打柴（砍～）／柴を切る
- 打電話（掛～）／電話を掛ける
- 打鞋油（擦～）／靴クリームを塗る
- 打官話（講～）／標準語を話す
- 打哈哈（開～）／a 冗談を言う b（大声）で笑う
- 打光棍（過独身生活）／（男性が）独身で暮らす

以上の例をご覧になったならば、「打」は確かにたくさんの動詞に代わることができると思われるだろう。ここで挙げられた例はただ一部分だけである。

(2) 食堂で売っている食物を買うことは「打」で表すことができる。

- 例・打飯／ご飯を買う
- 打饅頭／饅頭を買う
 - 打菜／おかずを買う
 - 打粥／お粥を買う

ここの「打」はみな日本語の「買う」に相当する。食堂で食物を買う場合、料理人に食堂の鍋などの容器から食物を買う人の食器に入れてもらい、食券を払ってから家へ持って帰って食べることである。この場合の「打」は「買」とも言える。

(3) また液体の状態であるものを買う場合に「打」を使う。

- 例・打醬油／醬油を買う
- 打醋／お酢を買う
 - 打酒／お酒を買う

• 打油／食油を買う

買う人が店の店員に大きな容器から自分の持っている瓶などに醤油などを入れてもらう動作即ち醤油などを買うことは「打」で表すことができる。それ以外のものを買うならば「打」を使ってはいけない。例えば、石鹼を買うん場合、「打肥皂」と言えば意味が全然違う。その意味は、お風呂に入る時「体に石鹼を塗り付ける」という意味である。それで「買肥皂」というべきである。「打醤油」などの言い方は「買醤油」とも言える。ところが、今の店で液体の調味料などを売っている形が変わったので、「打醤油」のような言い方は次第に言わないようになった。

(4) 球類のスポーツをすることは日本語でほとんど「～をやる」、「～をする」の形で表しているが、中国語の場合は主に手でやる球類のスポーツは「打～」で表している。足でやる球類のスポーツ（サッカー）は「踢（蹴る）～」で表している。

例・打籃球／バスケットボールをする

- 打排球／バレーボールをやる
- 打棒球／野球をする
- 打羽毛球／バドミントンをやる
- 打網球／テニスをする
- 打水球／ウォーターポロをする
- 打乒乓球／卓球をやる

日本語には「ボールを打つ（打球）」という言い方もある。

尚、あるゲームをやることも同じく、中国語は「打」で、日本語は「する」、「やる」で表している。

例・打撲克／トランプをする

- 打麻将／麻雀をする

この場合の「打」は「玩」とも言う。

(5) 病院で治療関係の述語にもよく「打」が使われている。

例・打針／注射する

- 打点滴／点滴する
- 打胎／墮胎する

- 打蛔虫／虫下ろしする

大体日本語のサ変動詞に当たる。

(6) 人間の体より出た生理的な反応や動作などを「打～」でも表している。日本語の「する」、「出る」などに当たる。

例・打噴嚏／くしゃみをする

- 打哈欠／欠伸をする
- 打盹児／うとうとする
- 打冷戦／身震いする
- 打飽嗝児／げっぷが出る
- 打呼嚕／いびきをかく
- 打擺子／マラリヤにかかる
- 打噎／しゃっくりが出る
- 打抽搭／泣きじゃくる

(7) 大自然の現象に関する言葉にも使われている。

例・打閃／稲光がする

- 打雷／雷が鳴る

(8) ある動物の喉、鼻より鳴き声がすることにも「打」を使っている。

例・打響鼻児／（馬、ろばなどが）鼻を鳴らす

- 打鳴児／（鶏が）時を告げる

(9) 日本語の「打つ」については、「打」の特性と同じように色々な動詞の代わりに用いられている。

例・電報を打つ（発信する）／打電報

- 鉄を打つ（～鍛える）／打鉄

以上二つの例は「打つ」が「打」と一致している。

- 耳を打った甲高い声（～突く）／刺耳的尖叫声
- 鼻を打った強い刺激臭（～突く）／刺鼻的強烈臭味
- ルビが打ってある（～つけてある）／標着振假名

- 釘を打つ（～叩き込む）／釘釘子
- 手で打ったうどん（～作る）／用手做的面条兒
- つぶてを打つ（～投げる）／扔石頭
- 通りに水を打つ（～まく）／往大街上撒水
- コンクリートを打つ（～流し込む）／澆灌混凝土
- 田を打つ（～耕す）／耕田
- 碁を打つ（～する）／下圍棋

(10) 打＋動物名詞

例・打野鷄／街娼を買う

- 打野鴨（撈外快）／定収入以外の所得をもらう
- 打老虎／汚職罪の役人を打撃する

中国語によく動物の名詞が使われて、人間や人間の行為を描写している。このような描写は普段 意の言い方である。「打野鷄」の「野鷄」はもともとの意味が野生の鷄であり、ここで街娼を指している。「打老虎」とは随分古い言葉で、中国の五十年代に行われた群衆運動の専用語である。国家機構に勤めた汚職の役人などを見つけたり、打撃したりしていたことである。この言い方は、現在もう使わなくて、歴史の遺産となったが、その時期に社会的、経済的な必要によって生まれた言葉である。

3. 打＋動詞→聯合構造の動詞

例・打掃／掃除する

- 打攪／邪魔する
- 打撈／（水中のものを）さらって取る
- 打听／尋ねる
- 打撃／攻撃する 打撃する
- 打架／喧嘩する
- 打烊／店じまいする

「打烊」は上海辺りの方言で、店が一日の営業を終えて竈の火を落とすことである。

以上の聯合構造の動詞は、日本語に訳すならば大体サ変動詞に当たる。

4. 打＋動詞→動補構造の動詞

例・打倒／打ち倒す 打倒する

- 打斷／打ち切る
- 打動／動かす、感動させる、（胸を打つ 心を打つ）
- 打翻／うちのめす
- 打死／打ち殺す

この構造は大体日本語の複合動詞に当たる。以上3、4の構造ははなはだ緊密であり、「打」と動詞の間に何か（助数詞など）挟むことができない。

5. 打＋名詞→動賓構造の動詞

例・打更／夜回りする

- 打官司／訴える
- 打工／アルバイトする
- 打馬虎眼／いい加減なことをする（言う）

これは北方の方言である。

- 打牙祭／口のお祭りをする

これは南方の方言である。「到了星期天大家湊份子打牙祭／日曜日には皆で金を出し合って御馳走を食べる」。

- 打趣／揶揄する

6. 「打算」について

これは「打＋動詞」の聯合構造であり、名詞、助動詞及び動詞として使われている。

(1) 名詞→ 打算／…もくろみ、計画

例・他有他自己的打算／彼には自分の心積もりがある

(2) 助動詞→ 打算／…つもりだ

例・他打算去美国／彼はアメリカに行くつもりだ

(3) 動詞→ 打算／考える、打算する

例・為自己打算打算／自分のために考えている

7. 打＋名詞→ 偏正構造の名詞

「打」は連体修飾語として後に来る名詞を修飾する。この構造は数少ない。

例・打手／ボスの手下、用心棒

二．介詞（前置詞）として

「打」は動詞のほかに、介詞としても使われている。これは北京弁の言い方であり、日本語の格助詞「…から」、「…より」、「…を（…を通過する）」、「…で」などに相当する。

例・打何処来的／どこから来たのか

- 打今天起／今日より
- 打心眼兒里／心から
- 打這座橋過去／この橋のところを通る
- 打做股票上發了財／株で大きな財産を築いた

三．量詞（助数詞）として

「打」は品物十二個を一組として数える量詞でもあり、日本語の接尾語の「～ダース」「打」と一緒である。

例・一打鉛筆／一ダースの鉛筆

そのほか、紙や紙幣などのような薄いもののやや厚い一重ねということ（不定の量）を表すのに「一打兒」の形で使われている。即ち「一迭子」という意味である。

例・他抓着那一打兒票子，呆呆地看着我／彼はその（一重ねの）紙幣を掴んで、ぼんやりとして私を見ていた。

四．外来語にも使われている。

例・山打根／サンダカン（マレーシアにあるところの地名）

- 蘇打／ソーダ
- 蘇打水／ソーダ水
- 蘇打餅干／ソーダクラッカー

五．「打」を含める慣用語について

「打草驚蛇」、「打情罵俏」、「打閃認針」など一字の「打」を利用して、色々な慣用

語ができています。中国人はたくさんの慣用語を作って様々な事情やわけを比喻している。これはどのように日本語に訳したらいいだろう。ここでいくつかの例を挙げたいと思う。

例・打腫臉充胖子／瘦せ我慢

字面の意味は「顔を腫れるまで打ち、でぶのふりをする」ということで、「瘦せ我慢」と同じことを表す。「充」は偽る、装う、「胖子」はでぶの意味である。

例・棒打鴛鴦／生木を裂く

中国ではよく動物のことで人間を比喻する。オシドリは一旦結合すると、いつも二羽が一緒にいて、もし一羽が死んだら、もう一羽が悲しんで間もなく死んでしまうことである。無理矢理に恋し合う男女を引き離すことを比喻する。

例・趁熱打鉄／思い立ったが吉日

何かをしようと思ひ立ったらずぐ行動したらいいという意味である。日本語の「鉄は熱いうちに打て」という話も、社員教育のような人間を育てる比喻としてよく使われている。

例・八十学吹打／六十の手習い

晩学のことを言う。「吹打」は楽器を吹いたり、打ったりする意味である。日本の場合には文字を学び、中国の場合は楽器を学ぶというわけである。

例・打家劫舍／（盗賊が）集団で民家を襲って財物を略奪することである。

- 打草驚蛇／藪蛇
- 歪打正着／怪我の功名
- 不打自招／問うに落ちず語るに落ちる
- 打骡子驚馬／遠回しに戒める

以上は、基本義を持つ「打」を含める慣用語であるが、基本義を失い、他の意味に転じた「打」を含める慣用語も数少なくない。

例・打閃認針／稲光で針を捜す

時間が短く事があまりににであるという意味である。「認針」は「纫針」とも言う。

例・打情罵俏／（男女が）いちゃつきふざける

以上は中国語の「打」と日本語の「打つ」を比較対照しながら、その訳し方にもついて論述した。本稿を書くのに、愛知大学《中日大辞典》、飛田良文・呂 玉新《慣用語対照辞典》及び時枝誠記・吉田精一《国語大辞典》を参考した。

（平成4年11月17日受理）